

# ～盛岡の史跡・文化財を外国人に知ってもらうには～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：史跡や文化財の国際化対応

研究代表者：短期大学部 教授 松本博明

課題提案者：盛岡市教育委員会 今野公顕

研究メンバー：短期大学部 熊本早苗, 小川春美, パトリック・マーハー

技術キーワード：地域の国際化, インバウンド, 多文化共生

## ▼研究の概要（背景・目標）

盛岡市には多種多様な文化財が現存する。外国人観光客・インバウンド観光促進の必要性が叫ばれているが、盛岡の観光対象となる文化財に対して、外国人に対する統一した検討がなされていないのが現実である。本研究調査では、こうした各施設での取り組みを主導する、共通した思想やツールを獲得することを目的とする。言語や文化の異なる外国人に、地域の歴史・文化に裏付けられた魅力を伝えるためには、既存の日本語パンフレットを「翻訳」するのではなく、来訪する外国人が持っているグローバルスタンダードな歴史的な知識や知見に、落とし込んだ解説法を開発する。

## ▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：来訪観光客・在留外国人・留学生など
  2. 調査内容：史跡のひとつ「紫波城」を実地体験してもらって、アンケート調査を実施。案内は、教育的成果も考え、国際文化学科の学生に対応させた。アンケート内容は右図の通り。
- 実施の前に、紫波城の基礎的な知識を学生に獲得させるために、共同研究者であり紫波城の専門家である今野公顕（盛岡市教育委員会）が学生を対象に事前勉強会を実施。その上で「外国人観光客に岩手の歴史文化を英語で伝えるIN紫波城古代公園」を実施。
4. 当日在留外国人3名と学生4名が参加、学生の解説によって体験会が実施された。

### アンケート内容

- 1 いままで紫波城古代公園を訪れたことはありますか。
- 2 訪れたことがある方に伺います。訪れたときガイドの方の説明を受けましたか。それは英語でしたか。
- 3 ガイドの説明内容はよく理解できましたか。
- 4 どういう点がよく理解できましたか。具体的に教えてください。
- 5 どういう点が理解できませんでしたか。またどういった点に気をつけたいと思いますか。具体的に教えてください。
- 6 今回紫波城古代公園を訪れてみて、何を感じましたか。
- 7 この地域の古代の歴史について理解できましたか。
- 8 どのようなことが理解できましたか。またどのようなことが理解できませんでしたか。具体的に教えてください。
- 9 本日の見聞で、皆さんがもっとも興味深かったものは何ですか。
- 10 皆さんのお立場から、この公園が外国の方によりいっそう興味をもたれるためには、何をどのように説明したらよいでしょうか。本日の体験から気付いたことを教えてください。
- 12 この公園に足りないものは何でしょうか。
- 13 母国はどこですか。



実地研修会の様子【紫波城古代公園および展示施設】

## ▼研究の成果（結論・考察）

- ・1. 外国人が、地域の歴史の詳細な内容について興味を持っていることが明らかになった。つまり、説明者側も単に英語が達者であるだけではだめで、こうした歴史についての詳しい内容を、聞く側の知識の水準にあわせて解説する取り組みが必要であることが改めて浮き彫りになった。
  - ・2. 紫波城古代公園が施設としていっそう魅力的な発信をするべき（宣伝発信と体験などの実施）であるという趣旨の答えが多かった。
- こうした提言は、本調査研究を始めるきっかけとなった問題意識と、基盤を共有しており、本研究のほう光栄の正しさを、外国人の方々の実証してくれた形になった。

「紫波城や東北の古代史について理解できたか」という質問に対しては「アイヌのことは知られているのに、なぜ東北の蝦夷は知られていないのか不思議だ。」立ち入った歴史の詳細な内容について興味を持っていることが明らかになった。「紫波城古代公園が、外国人に興味を持ってもらうにはどうしたらよいか。」という問いについては、「当時の歴史や、この史跡がどうかかわっているかなどを示す表や図があるといい。平安時代の知識がない外国人だと、わからないかもしれない。」「10年以上も前に藤原の里を訪れたが、当時の衣装を着たマネキンや飾り、家具などがあり、活気が感じられた。(略)当時の様子を再現するように作られているように感じなかった。」といったように、紫波城古代公園が施設としていっそう魅力的な発信をするべき（宣伝発信と体験などの実施）であるという趣旨の答えが多かった。

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本研究で得られた成果を踏まえて、今後は、実地調査を積み上げることでニーズを正確に把握し、それに基づいてガイド用の英語パンフレットの施策、ガイドの内容についての解説書などの施策を試みていくことになる。
2. アンケートの量、質を高めることが、今後の課題として重要である。
3. 調査実施にあたり、ご協力いただいた関係諸氏に感謝申し上げます。